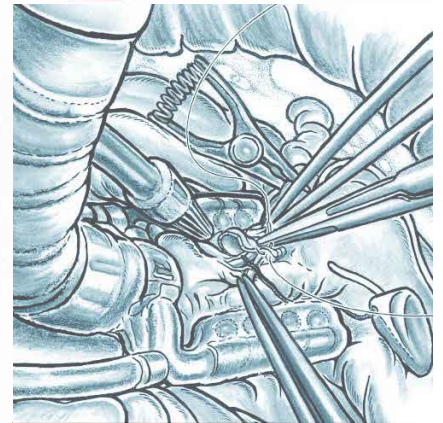
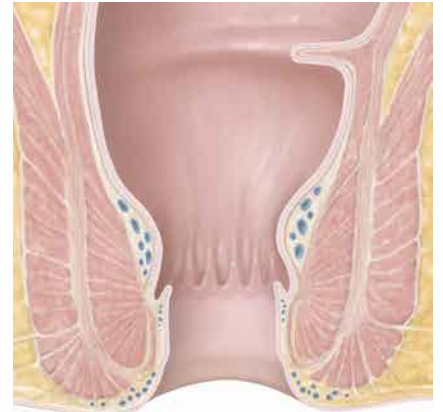


精緻なバランスの体系である内的宇宙—私たちの体から得られる情報は、自然の恵みといえます。これに向き合うとき私たちは平等であり、医療者もイラストレーターもフラットな関係です。情報をもとに知識と技によって作品を創り上げることは苦しくもありますが、とても楽しいことです。優れた作品は医学に貢献できるだけでなく、見るものに気付きと感動を与えます。それは情熱となって日々の実践の原動力となっていくます。

## 学会設立の目的

これまでに積み上げられてきた医学研究・教育には、文字情報と視覚情報による記録・伝達が不可欠でした。写真と医用画像機器が発達し視覚情報として大きな役割を担っていく中で、欧米と日本は異なる道を辿ります。医学の発展と肩を並べて「表現者」を養成してきた欧米と異なり、日本では医学を学び理解した人が視覚化に取り組む体制が作られませんでした。文化的な視覚表現においては高いレベルを誇る国であるにもかかわらず、デザインや美術が持つ「人に伝える技術」が活かされる機会が大変少なかったのです。

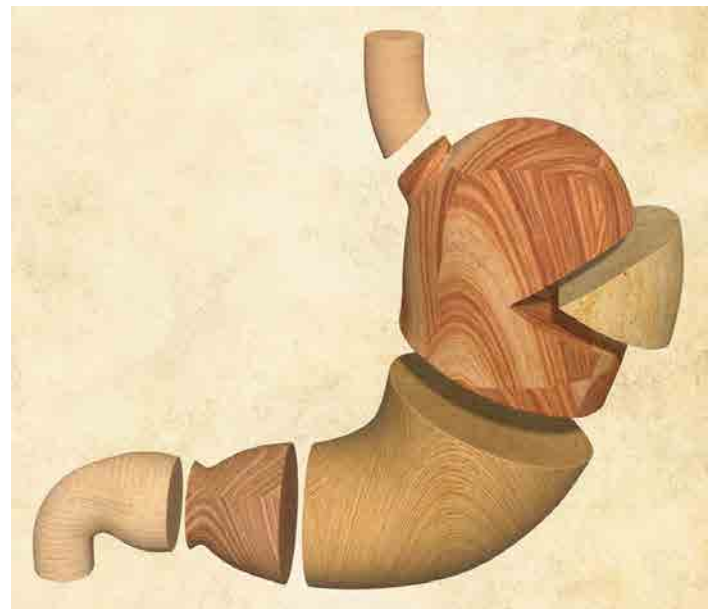
その結果、現在さまざまな場面で不足が語られ、その必要性が訴えられています。高度な医学・医療が実現していますが、そこには見えないロスが存在しているのです。医療者同士だけでなく一般の方への分かりやすい伝達が求められる今、医学の視覚的表現に関する意識改革を促し、中心的な研究の機関となるべく「メディカルイラストレーション学会」は発足いたします。本学会の目的は「学術研究の推進」「教育」「普及・広報」「会員相互の交流」「専門性の高揚」「知財権の研究」の6項目の実践であり、これにより会員一人一人の活動を支援し、広く国民の医療・福祉に貢献することです。



## 前提となること

MRI や CT に代表される医用画像機器は個体の詳細な形態と機能を可視化することができ、4K 動画撮影機器などの記録メディアは現場の状況を劣化なく記録できます。また PC 処理能力の飛躍的発達により CG の表現可能性が増大し、画像加工の簡易化により個人でも高度な CG 表現が可能になりました。このように画像全盛となった現在でも、基礎的な表現能力として重要なのが古典的手法による手描き制作です。自分の手指を使った感性が主役となるメディアであり、能動的に観察し手を動かし描写することで、対象の新たな発見と理解、記憶の定着が促されます。その発見は見るものにダイレクトに伝わり、描き手と受け手の距離が最も近いメディアと言って良いでしょう。

これらは等しく全て「表現のための道具」であり、表現の可能性はかつてないほど広がっています。また医学は、医療者個人々人によって「知覚された」医学としての側面をもち、感情と知覚が乗ったイメージを形成しています。これからのイラストレーションは上記手法の統合によって、医療者のイメージを表現できる可能性を持っています。また生命科学の躍進と医療の進歩の中で、社会は常に新しい医学表現を求めています。



Stomach anatomy  
Hiromitsu Yokota

## 基本となる学の枠組み

我々が考えるメディカルイラストレーション学の柱となる 5 つのテーマは、(1)「表現技術論」 (2)「表現対象として捉え直した医学」 (3)「教育方法論」 (4)「効果及び再現性の検証」 (5)「普及活動」です。

### (1) 表現技術論

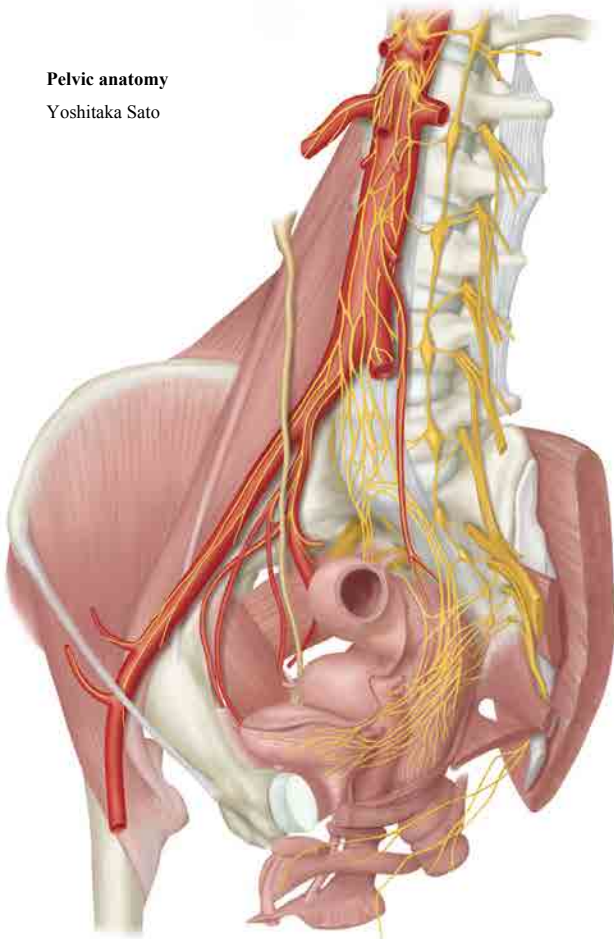
頭の中にあるイメージを作品にするには、何らかの表現技術を使う必要があります。描く道具をうまく使いこなせるほど思った通りの表現が可能になります。またどのように対象を見るのかによっても作品の仕上がりが変わってきます。1 枚絵の表現と、組み合わせた表現では注意すべきポイントが変わり、アニメーションやバーチャルリアリティではさらに考える要素が増え、習得すべきスキルも変化します。学会では表現に関わる思考の積み重ねを研究対象とします。

### (2) 表現対象として捉え直した医学

イラストレーターにとっては、医学的・解剖学的知識を学ぶことが重要であるの言うまでもありません。日進月歩の医療現場が求めるレベルに到達するには、高い専門性の詳細を理解する必要があります。一方、医療者にとっては、医学を描く対象として捉え直すことが表現の始まりとなります。医学的知識を「使う」のではなく「描く」には、表現のための観察力の養成と情報の取捨選択が必要です。逆に「描く」ために養った観察力は、臨床現場の実践にも役立つことが期待できます。

例えばベテラン医師によるラフスケッチのようなイラストが、対象の真髄を表していることがあります。これは表現技術の巧みさとは異なる対象把握の能力であり、イラストレーターが学ぶべき力です。学会では描く対象として医学を記述するための研究を設定します。

Pelvic anatomy  
Yoshitaka Sato



### (3) 教育方法論

イメージを形にする喜びを大切にしながら、表現技術と医学の知識を効果的に教える方法・システムのあり方を研究対象とします。医療者にとっては優れたイラストレーターの表現技術は豊かな学びの対象となり、イラストレーターにとっては医療者の知識や体験、倫理観から学ぶ点が多くあります。優れた先駆者の技術や考え方を共有することや、海外の優れた作品から学びとることも大切な課題です。その上で医療者向け、イラストレーター向けの継続的な教育システムを構築し、資格認定の制度化を目指します。

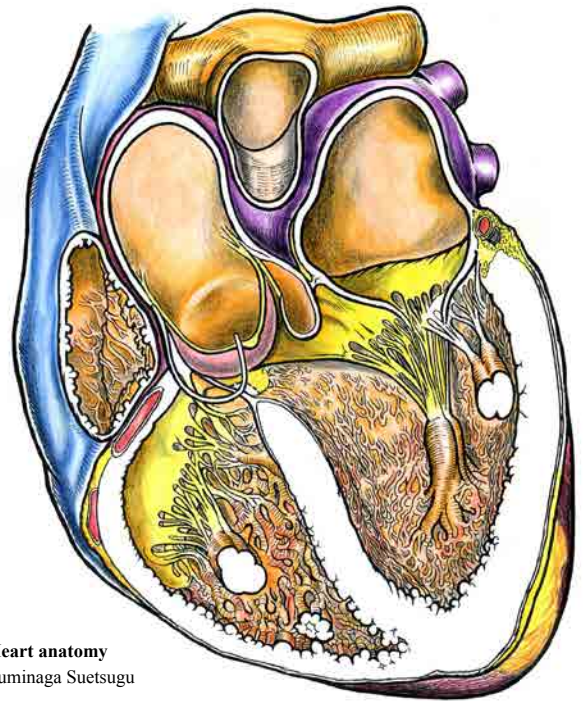
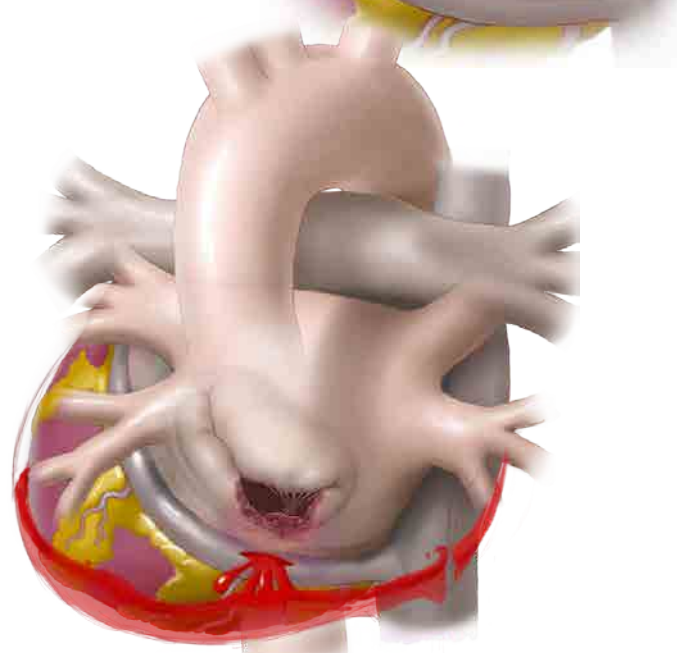
### (4) 効果及び再現性の検証

会員一人一人がメディカルイラストレーションの研究者であると考えた場合、学問としての客観性を担保し、研究者相互の平等性を保証することは重要な課題です。メディカルイラストレーションだからこそ与えることの出来る効果があります。表現者と表現手法ごとに、受け手の認知に与える効果を検証し、良い効果の再現性を高めるための教育法を研究対象とします。

### (5) 普及活動

私たちの活動がより社会に貢献できるように、普及活動に焦点を当てた研究を設定します。広く社会全体の認知を高め、利用を促すために、有効な普及手段を計画、実行し、その効果を検証すること。医学系学会や学校、病院、医療系出版社・メディアと継続した関係を構築するための活動やインターネット時代の普及活動のあり方、今社会で求められている表現についても追求します。

Coronary sinus rupture  
Michiaki Akashi



## 会員相互の交流

本学会が個人で活動している方々の集まる場となり、専門分野としてアピールすることで、一人一人が「勇気づけ」と「励まし」を得ることができるでしょう。自分の専門を追究する、新しい表現に取り組む、知らなかった分野の理解を深めるなど、「学会」としてふさわしい研究を発表し合い情報を交換することで、互いに貢献し合う喜びが得られます。何より「メディカルイラストレーションを研究している人」と触れ合うことで相互に得られる刺激や励ましは、なにもものにも変えがたい資産です。

イラストレーションはその分かりやすさから、分野の壁・世代の壁を超えていく力を持っています。私たちは皆さんと一緒に研究を楽しみながら、交流によって得られる収穫を、個々のイラスト制作に還元できるようなプログラムを作りたいと考えています。

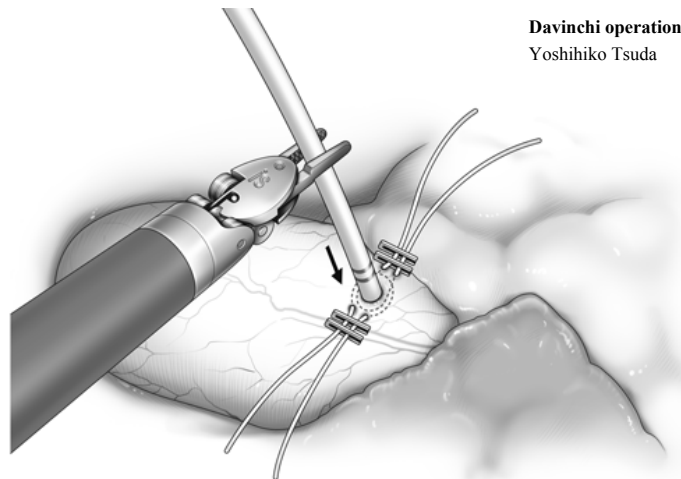
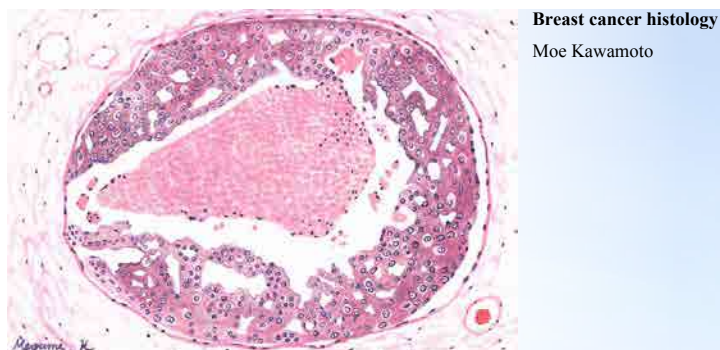
また皆さんと他の医学系学会との間の「ハブ」として機能する学会を目指します。各分野で日々蓄積されている大量の医療情報を集積し、学会活動に活かしていくことにより、高度な知的情報に基づく成果を他の学会に還元できる可能性を追求していきます。

学会では分科会を設け、メディカルイラストレーションに関わるすべての表現ジャンルを受け入れます。医学とアートを人一倍楽しむ情熱があれば、みんな仲間です。だれもが自由に参加でき平等に尊重されることは、私たちにとって最も大切なことです。

近年、医学論文のデジタル化に伴って、論文内容に匹敵する質の高いイラストレーションが要求される傾向があります。正しく的確な表現で論文自体の評価を高め、オリジナリティがあり著作権問題をクリアする図版が望まれています。日本でもメディカルイラストレーションの作り手のプロフェッション（専門性）を高めることが必要です。医療者自身が描く場合、学会は様々なプログラムによって支援し、専門の一つとして堂々と研究できる環境を作っていきます。

メディカルイラストレーターの専門性を高めることも強く求められています。日本では川崎医科大学以外に正式に学ぶ場所が存在しませんが、アメリカでは医療現場の前線で医師と協働できる人材を百年前から養成しており、医学の教育を受けて医師とのコミュニケーション能力を習得し、医学部図書館や医用画像を利用したり、解剖室や手術室への立ち入り取材等が可能です。大病院や医療系出版社にはイラストレーターがメディカルパートナーとして常駐し、医師らの要望に応じて作品を作る体制が整っています。

学会では医学知識を渴望しているイラストレーターと、医学・医療の専門家をつなぐ場を作ります。解剖学的知識や研究領域の知識にとどまらず、医療者が何を大切に思っているかを理解し、個人情報保護や医療倫理にも配慮できる人材が育まれる環境を整備していきます。将来的には独自の認定制度を設け、日本にもすべての専門領域でそれぞれに対応可能なイラストレーターたちが働く未来を、会員の皆さんと一緒に作っていきたくと願っています。



## 知財権の研究

人間の幅広い知的創造活動の成果について、その創作者に一定期間の権利保護を与えるようにしたのが知的財産権制度です。これまで日本では、メディカルイラストレーションに関する知的財産権が正面から論じられる機会がありませんでした。近年、政府では「知的財産立国」の実現を目指し、様々な施策が進められています。権利保護を与えることにより創作者の創作意欲を促進し、新しい知的財産の創出を促すことで社会還元することが「知的財産基本法」の精神です。

学会ではこの精神に則り、製作者の知財権のあり方を研究し、安心して取り組める環境の整備を目指します。これにより日本のメディカルイラストレーションの活発化とレベルの向上をバックアップすることで、国際的にも活躍できる基盤を作ってまいります。

# 第1回 日本メディカルイラストレーション学会 学術集会・総会 開催決定

会長：レオン佐久間（川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科 特任教授）

会期：2016年12月4日（日）

会場：岡山県倉敷市 川崎医科大学 現代医学教育博物館